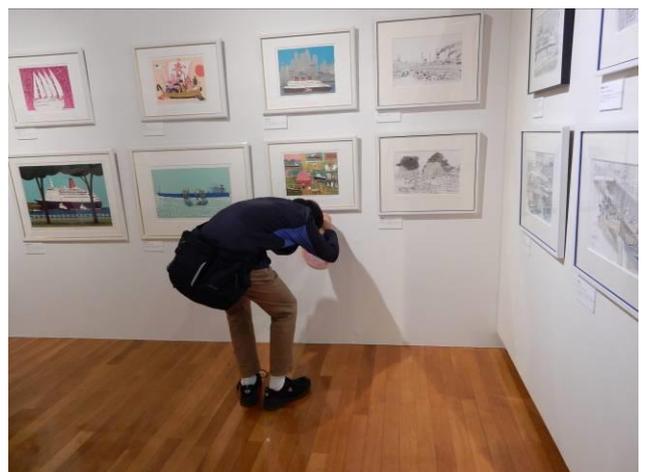


横浜みなと博物館

企画展名「柳原良平 海と船と港のギャラリー」

開催期間：平成28年8月20日（土）～平成28年11月6日（日）



【企画展の内容・目的】

- 画家、イラストレーターとして著名な柳原良平は、一般には馴染みの薄い存在になっている船を親しみやすいタッチで描き、多くの人々に船や海への関心呼び起こすきっかけをつくってきた。柳原の「皆さんと一緒にこれからも海と船と港への思いを拡げていきたい」という思いを、柳原の作品展示を通して再現し、海と船と港に親しむ機会とした。
- 柳原の明るく親しみやすい作品やポスター、映像、絵本など媒介にして、こどもから大人まで幅広い人に、海に親しみ、海を知り、海を大切にする心を養う場を創出した。
- 企画展のテーマへの理解を深めるために、多様な年代を対象にした座談会や絵本作りワークショップ、ガイドツアーなどの各種付帯事業を実施し、海と船と港に関するわかりやすく楽しい海の学びの場を提供した。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成28年8月20日(土)～平成28年11月6日(日)
- 開催場所：横浜みなと博物館 特別展示室
- 入場者数：12,145人



企画展屋外サイン



横浜みなと博物館 外観



企画展会場 入口



導入部 学生時代の作品。コーナーサインに案内役のアンクル船長



寿屋のデザイナー時代の展示



「めくって見つけるパネル」を設置

【展示テーマ：0 港でスケッチする】【展示テーマ：1 デザインの仕事に始まる】
主な展示資料＝学生時代のスケッチや油彩画、デザイナー時代の広告資料、船の絵本原画、貨物船の水彩画、海から東京湾の切絵など
【学びの効果】柳原が青年時代から船や港の絵を描き、その後の活動の原点がそこにあること、広告の仕事をしながらも船の絵を描き発表していたことを紹介して、柳原の海、船、港に対する思いを知ってもらうための導入部とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



「ばいかる丸」などのアニメを上映して人気



イラストレーターとして描いた様々な船



愛用のイーゼルや筆、絵具箱も展示



船や港をテーマにしたポスターの代表作

【展示テーマ：2 船を描くさまざまなスタイル】

主な展示資料＝『柳原良平 船の本』、船のイラストレーション、アニメーション、国内外の船と港の水彩画・油彩画・リトグラフ、ポスター、雑誌の挿絵・表紙画、本の装丁など
 【学びの効果】 船の絵を本格的に描くようになった以降の多彩な表現による作品を展示することで、幅広い層に海、船、港に興味と関心を持ってもらう学び場とした。



晩年の現代美術を意識した表現の作品



代表的な船などの絵本とその原面の展示

【展示テーマ：3 新しい表現をさがす】

主な展示資料＝油彩画「コンテナ船 NYK」「タンカー」「南洋」、切絵「海洋国日本」「MOL 自動車船」、絵本『のりものいっぱい』『ボクふねにのる』原画、インタビュー映像など。
 【学びの効果】 晩年、新しい表現方法で描くようになって、また絵本を意欲的に描くようになって、ますます柳原の海、船、港への思いはより深くなってきたところを作品、資料で展示し、船を通して海洋へとつながる意識を醸成することができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



「めくって見つけるパネル」アングル船長から出題



入場者に問いかける「めくる見つけるパネル」



「めくるパネル」は展示作品に合わせて設置



めくると解答[漁船]と解説

- 見学者に興味を持ってもらうため柳原のキャラクター「アングル船長」をチラシやポスターのほかに、展示の各コーナーに使い案内役とした。
- 展示の工夫としては、アングル船長を使った「めくって見るパネル」を作成し、展示作品の下に設置した。「漁船」「ばら積み船」「船員」などをテーマに、作品にまつわる課題を出し、作品をよく見て考える、パネルをめくると答えと解説が得られるようにした。パネルがあることにより、ただ見るのではなく描かれた船や海、人物などの意味や役割により関心を持ち、また考え、発見するなかから「海の学び」の意識へとつながったと考える。
- 柳原の「皆さんと一緒にこれからも海と船と港への思いを拡げていきたい」という言葉、思想を作品や資料をお通して表現し、柳原が伝えたかった“海と船と港の大切さ”を知ってもらい、親しみ、関心をもってもらう機会を提供できたと考える。

【来館者の声】

- 船や海が大好きであることが伝わってきました。
- 地方の港も含め以前のきれいな海洋を取り戻したいですね。
- 海は大切な物だから、汚したりしては行けない。
- 海の偉大さと船の偉大さ。
- 生命を育む海の大切さ。
- 海の雄大さの再認識（というより新たな認識）と航海したくなった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2. 関連事業の内容

■座談会 柳原良平の海と船と港の絵を語ろう

【開催日時】平成28年9月17日（土） 14:00～16:00

【開催場所】日本丸訓練センター

【参加者数】74名

【目標・内容】

- 柳原は、様々に描いてきた船や港、海のイラストレーションや絵画で、海、船、港に関心を持つ人々を増やしたいという思いがあり、これ共有する機会とした。
- 海と船と港の絵を描き続けてきた柳原良平が絵を通して伝えたかったことについて、美術史家、海事史家、デザイナーという関連する分野の専門家に語っていただき、作品とそのテーマについて深めてもらう、一般市民を対象にした座談会。



座談会会場



今回は女性の参加者も比較的多かった



座談会の様子



司会の質問に答える講師

- ・座談会は、柳原作品に描かれた船、港、海を多角的に捉えるため、岡部昌幸氏（美術史家・帝京大学教授）、柳原氏と親交があった山田迪生氏（海事史家）と石浦克（デザイナー・イラストレーター）の3人の講師を招いて実施した。
- ・柳原氏は現場でスケッチし、また昔の船については研究していたことなどが明らかになり、また船の形をデフォルメすることで、ふだん馴染みのない船に親しみやすさを与える工夫などが話され、作品に流れる船や海の大切さを考える場となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



画像を使ってわかりやすく解説



プロジェクターを2台使って話す講師



参加者の質問に答える講師



熱心に耳を傾ける参加者



会場へのサイン



会場のサイン

- ・参加者からは、「海のことは考えたこともなかったので世界が広がりました」「海、港、船についてこれからも考えたいと思います」との声が寄せられ、柳原良平の描いてきた絵を語ることが、海の大切さを広げたいという柳原の思い、「海の学び」としても有効であったと確認することができた。

【来館者の声】

- 海の色は青が一番。汚れないようにしなくてははいけませんね。
- 海そして港、船についてこれからも考えたいと思いました。
- 世界の7割は「海」と言われるように、我々は「陸」の上で生活しているが、だからこそ「海」を大切にしないといけないと再認識した。

■柳原良平の絵で海・船・港の絵本をつくろう

【開催日時】平成28年9月24日(土) ①10:00～11:30
②13:00～14:30
9月25日(日) ③10:00～11:30
④13:00～14:30

【開催場所】日本丸訓練センター

【参加者数】小学生4～6年 ①2名 ②2名 ③2名 ④3名 計7名

【目標・内容】

- 展示作品から絵を選び文(ストーリー)と本の構成を考えることによって、海や船、港についてより深く考えることが期待され、達成できたと思う。
- 展示している柳原作品を使って絵本を作る。参加者が自分で考えた海や船、港に関するテーマにふさわしい作品を選び、ストーリーを考え、製本し、作品(絵)に文章を加えて、オリジナルな絵本を制作した。



柳原氏の絵及び絵本の作り方の説明



会場で作品の解説の後、絵本に使う絵を選ぶ



テーマにそって選んだ絵を並べて貼る



絵を台紙に慎重にピッタリ貼る製本作業



テーマに合わせて絵に文章をつける



絵本のタイトルのレイアウトを考える

- 小学生を対象にした柳原作品からオリジナル絵本を作るワークショップ。作品を見ながらテーマを考え、絵を選び、構成を考え、台紙に貼り、文を書き、タイトルをつけた。
- 参加者は明快で親しみやすい柳原の絵から、船や港、海への多くのイメージーションを受けていたように思う。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



絵と文ができたら余分な部分を切る



最後にタイトルを貼って完成



世界で1冊の絵本の完成！ 24日午前の部
絵本は『いろいろな船』と『船の旅』



傑作絵本完成！ 24日午後の部
『日本の港の姿』と『かもつ船めぐり』



ようやくできた。25日午前の部
『よこはまさんぽ』『ようこそ!! 横浜港へ』



思い思いの絵本が完成。25日午後の部
『船のせかい』『Ryoとかくれんぼ』『ふなたび』

- ・参加した小学生にとって柳原良平は知らない画家で、絵を選ぶ時はテーマに合ったものや描かれている船や港の風景自体への興味から絵を選び、その結果、船、港、海といったテーマにより直接的に向き合っていたと考える。親しみやすい柳原の絵は効果的であった。
- ・「海は大切だと思う」という参加者の感想が、絵本作りが「海の学び」への効果が大きかったことを示している。参加者は少なかったが、大変充実した「海の学び」の場であった。

【来館者の声】

- いろいろなふねについて学べた。海は大切だと思う。
- 船がいっぱい通るから、海は大切だと思った。
- 長い間、海というものはずっとあるものだから、守って行かないといけないなと思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等できません。

■ガイドツアー

【開催日時】平成28年9月29日（木）①9：30～13：30
9月30日（木）①9：30～13：30
②13：00～17：00

【開催場所】横浜港周辺及び横浜みなと博物館

【参加者数】97人

【実施内容・目的】

- 柳原良平が作品に描いた横浜の船と港、海の風景を求めて港周辺を歩いた後、博物館で担当学芸員による柳原作品についてのミニ講座を行い、その後、企画展を見学した。NPO法人横浜シティガイド協会との共催事業。
- 描いた場所を訪れ、作品と見比べることにより、作者が海、船、港について伝えなかったことについて考え、参加者が海への意識を深めた。



山下公園で40年前の同公園を描いた作品解説



大さん橋から描いた作品を現場から見る



ツアー最終地の日本丸パーク到着



日本丸と博物館を描いた絵について解説

- ・日本大通り～山下公園～大さん橋～新港ふ頭～日本丸メモリアルパークを歩いて、柳原の絵の描かれた場所と描いた光景を訪ね、その場所に立って何を描こうとしていたか考える。
- ・現場で作品（コピー）と見比べて、見えるけれど描かなかったもの、見えないけれど描いたものを探すと、例えば、ベイブリッジを通るコンテナ船の絵は橋と船以外は描かず、周りの風景は省略して、コンテナを積んだコンテナ船だけに目がいく作品になっていることがわかり、作者の思いと船、港、海への興味・関心の醸成につながったと考える。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



館長ミニ講座の会場サイン



ツアー後、柳原作品についてのミニ講座を実施



デザイナー時代と船と港、海の画家の作品解説



見学してきた制作現場の解説を熱心に聴く

- ・ミニ講座終了後、企画展会場を自由見学し、新たな目で作品に親しんだ。全体で4時間に及ぶ行事であったが、参加者は終始興味深く熱心であった。
- ・ツアー、講座、企画展見学を通して、柳原氏が絵で訴えたかったこと、海や船への思いを知り、あるいは再確認するとともに、これを通して“船”から“海”へ広がる「海の学び」の意識を深める事業となったと考える。
- ・また、柳原作品の青い海と現実の海を見て、海を汚してはいけないという声も参加者から寄せられ、「海の学び」への導入ともなった。

【来館者の声】

- 外に出て直接、港、船、海のことを知ることができた。
- 地球から見て母なる海と言います。汚したりしてはいけないと思います。
- 散歩道の水際にゴミ等、不純物が目に付いた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■フロアガイド

【開催日時】平成28年9月19日（月）①11：00 ②14：00
10月29日（土）①11：00 ②14：00
11月6日（日）①11：00 ②14：00

【開催場所】横浜みなと博物館特別展示室（企画展会場）

【参加者数】137人

【実施内容・目的】

- 企画展担当学芸員による会場における展示解説。展示の見どころを中心に解説するとともに、見学者からの質問を受け付けた。
- 作者が伝えたかった海、船の大切さを知ってもらい、海、船についての意識を深める「海の学び」の機会とした。



フロアガイドに集まった参加者



フロアガイドの様子



熱心に話を聞く参加者



女性や若い人の参加が目立った

- ・毎回、従来のフロアガイドの2倍以上のたくさんの参加者があり、また女性や比較的若い人も多く、柳原良平と作品への関心の高さがうかがわれた。
- ・解説をお通して描かれた内容から船、海への関心、意識を醸成することができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



変わらぬ船に対する思いが参加者を惹きつけた



船を中心とする柳原氏の多彩な活動に関心



ほとんどの人が最後まで熱心に解説を聞いた



終了後も参加者からの質問が相次いだ

- 展示の見どころと主要作品を中心に解説することにより、作者が伝えたかった「皆さんと一緒にこれからも海と船と港への思いを拡げていきたい」という思いが参加者に伝わるように、作品のモチーフ、画面構成、特徴などにふれながら実施した。
- 作者が作品を通して伝えたかった、海と船と港への思い＝“海の大切さ”を知ってもらい、直接的で効果的な「海の学び」の実践の場となった。

【来館者の声】 ※アンケートはとりませんでした。会場で聞いた参加者の声です。

- 船のイラストレーションに目や口、足があるのは、船に親しみをもってもらいたいがための工夫だったと、初めて知りました。
- こどもの頃から変わらない船への愛情が伝わった。
- 柳原先生は海、船を常にわかりやすく、明るく描いていて、海や船が好きになりました。

【事業全体のまとめ】

- 本企画展では、柳原良平の「皆さんと一緒にこれからも海と船と港への思いを拡げたい」という言葉、思想を作品や資料をお通して表現し、柳原が伝えたかった“海と船と港の大切さ”を知ってもらい、関心をもってもらう機会を提供できたと思います。
- 展示及び子どもから大人までが参加できる多様な付帯事業により、海と船と港について能動的に見聞し、考え、作ることで、楽しみながら「海の学び」を実践する機会を提供することができた。
- 入館者、付帯事業参加者からは、シンプルに「海の話は考えたこともなかったので世界が広がった」「海や船についてこれからも考えたい」「船がいっぱい通るから海は大切だと思った」という「海」の大切さについての感想が多く寄せられ、「海の学び」への手ごたえを感じた。
- 最後に、「海の学びミュージアムサポート」を受け、それなりの規模と内容で本企画展を開催することができた。この企画展を契機に、海、船、港への思いを生涯わたって描いてきた柳原良平の作品が再認識され、次年度に各地の博物館、美術館でも柳原の企画展開催されることになったのは、望外の収穫であった。
- また、本企画展の大きな反響と、入館者アンケートで非常に多くの方が柳原作品の常設展示の要望があった。そうしたこともあり、横浜市によって次年度、当館内に柳原作品の常設展示室が設置されることになったのも大きな成果であった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. (公財) 海難審判・船舶事故調査会	柳原の表紙絵による機関誌「海難と審判」の展示協力
2. 東海汽船(株)	柳原が船体デザインした船の写真提供による展示協力
3. NPO 法人横浜シティーガイド協会	ガイドツアー事業を共催により3回実施
4. サントリーホールディングス(株)	洋酒テレビCMの放映許可による展示協力
5. (株)グローカルジャパン版画工房	絶筆となったリトグラフの原版提供による展示協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 神奈川新聞	海と船と港の世界 画家・柳原良平展 8/4
2. 朝日新聞	アンクルトリスの「父」84年の軌跡 柳原良平さん きょう一周忌 企画展 8/17
3. 神奈川新聞	コラム欄「照明灯」 8/18
4. タウンニュース	柳原良平展 「横浜」感じる150点 8/18
5. ラジオ日本	ホッと横浜 横浜みなと博物館「柳原良平 海と船と港のギャラリー」 8/25
6. 横浜観光情報 web	企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」 8/20
7. FMヨコハマ	ヨコハマ チョイス 横浜みなと博物館「柳原良平 海と船と港のギャラリー」 9/7
8. ラ・メール	横浜みなと博物館で開催！企画展「柳原良平」9,10月号
9. 神奈川新聞	海や船描き「常に挑戦」※座談会開催記事 9/18

10. tvk (テレビ神奈川)	ハマナビ 横浜みなと博物館 柳原良平企画展 9/24
11. 山梨日日新聞	アンクルトリスや海 150点 故柳原さんの絵一堂 10/1
12. 四国新聞	アンクルトリスに船と海 横浜で柳原良平展 10/10
13. 京都新聞	アンクルトリス、漂う郷愁 故柳原良平さん展、横浜で 10/12
14. 岩手日報	アンクルトリスの世界豊か 横浜で故柳原良平さん展 10/22
15. 東奥日報	横浜で故柳原良平展 10/24
16. 茨城新聞	キャラや油彩画 故柳原良平さん展 10/25
17. よこはま港	企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」 10月号

以上